

ぬくもり

橋本地区社会福祉協議会だより

第39号

橋本地区社会福祉協議会
会長 森 誠 壽
事務局 緑区合同庁舎社会福祉協議会内
TEL 042-775-8601

人口 73,492 (-335) 世帯数 34,953 (+191) 自治会数 31 (令和2年11月1日現在)

みんなので支えあい 地域力が育む 人はやさしいまち はしもと

新しい地域活動への転換へ

今、新型コロナウイルスの影響で、これまでの方法で交流やたすけあいの活動を行うことが難しくなっています。新しい生活様式のもと、どのような活動ができるでしょう

「地区社協」って何だろう？

地区社協（地区社会福祉協議会）ってご存じですか？市内では22地区に地区社協が組織され、それぞれの地区の特性を活かし、地域の子どもから高齢の方まで安心して生活できるお手伝いをしています。

橋本地区社協の取組みは！

橋本地区社協では、高齢者から障がい者、お子さんが安心して暮らしていける地域づくりを目指して、「ふれあいの家・ぬくもり」を活動拠点に、よろず相談や子育てサロン、高齢の方にはぬくもり喫茶や将棋、麻雀をはじめ、百歳体操などを開催しています。（実施状況については、お問い合わせください）

橋本地区を支えるマンパワー

コロナウイルスが地域の在り方にどのような影響を与えるのかはわかりません。しかし地域には、自治会や民生委員さん、ボランティアさんという皆さんを支えるマンパワーがあります。また市社協では、地区社協の事務支援に取組む地域福祉推進員、高齢者に関しては生活支援コーディネーター、困りごとの相談を受付するコミュニティソーシャルワーカーを配置し、どのような取組みが必要か考えています。お困りごとや、やってみたい活動がありましたら、ぜひ橋本地区社協の事務局（042-775-8601）へご連絡ください。

皆さんには、何か趣味や特技はありますか？手先が器用な方ならお手製のマスクを福祉施設に寄付することもできます。あなたの特技を活かして人とのつながりを感じられる活動を行う方法がきっとあります。一緒に考えてみませんか？

橋本地区社会福祉協議会の事業

橋本地区協は、関係機関の協力のもと、地域の人々が住み慣れた町で安心して生活できる「福祉のまちづくり」の実現をめざし、さまざまな活動を行っています。

《 募 金 》

- ・一般賛助会員募集
自治会にご協力いただいています。
- ・赤い羽根共同募金
自治会、民児協、その他諸団体に協力いただいています。
- ・年末たすけあい募金
自治会にご協力いただいています。
- ・福祉募金募集
民生委員にご協力いただいています。

《 支 援 事 業 》

- ・活動育成費の支援
ボランティア団体、サロンを含む地域福祉活動団体、地区子連等児童福祉活動団体、各自治会連合会に支援しています。

《 広 報 紙 》

- ・機関紙「ぬくもり」の発行

《 高 齢 者 ・ 障 が い 者 事 業 》

- ・米寿祝い記念事業
88歳米寿の方へお祝品と表彰状をお届けします。
- ・橋本地区敬老事業
77歳以上（4月1日時点）の方全員へお祝品をお届けします。
- ・福祉事業
おたすけケースと懐中電灯をお届けします。
- ・七夕まつり招待激励事業
橋本七夕まつりに高齢者と障がい者を招待し竹飾りの見学と軽食で楽しんでいただきます。
- ・ふれあい招待事業
障がい者の方を招待し上大島キヤンプ場で一緒に調理・食事をしてふれあいを深めます。

《 福 祉 コ ミ ュ ニ テ ィ 形 成 事 業 》

- ・ふれあいの家「ぬくもり」の運営
地域住民の福祉活動拠点となるふれあいの家「ぬくもり」の運営・管理を行います。また、「ぬくもり」で開催される活動（百歳体操、麻雀、喫茶、将棋、映画等）を支援します。

《 街 頭 募 金 》

募集、密接を避け、募金箱を置き、声掛けも控え、実施日時・場所も縮小した街頭募金。皆様ご協力ありがとうございました。

《 敬 老 事 業 米 寿 祝 い 記 念 事 業 》

密接を避け、ポストインで77歳以上の高齢者へ敬老のお祝い（お茶）、米寿の方には賞状と記念品（湯呑）をお届けしました。

「寄付をいただき心よりお礼申し上げます（敬恭略）」

- 株式会社 永田屋
マスク寄贈
- イオン橋本店
黄色いシートキャンペーン
ギフトカード寄贈
- ザ・ビッグ相模原二本松店
黄色いシートキャンペーン
ギフトカード寄贈
- ザ・ビッグ相模原
車椅子寄贈

あたたかい心を
ありがとうございます
◎編集後記

コロナ感染症対策の中で、さまざまな事業が中止となり、それぞれの立場で、最善を尽くし、試行錯誤で執筆致しました。健康管理にご留意頂きまして一日も、早いコロナ感染症の終息を願い、早く平穏な日常が訪れることを望みます。又改めて、医療従事者に敬意を払い、心より感謝申し上げます。



あの町 この町

みやかみ

宮上小避難所運営協議会訓練で感じたこと

恒例の宮上小避難所訓練。コロナ禍の中、今年度は恒例の実践ではなく、机上でできる運営協議会を開催しました。令和2年10月31日、緑区合同庁舎4階集団指導室、34名（自治会23名・市8名・防災専門委員1名・連合2名）で感染防止対策をした上で実施しました。

今回は、コロナ禍を意識し作成したマニュアルの検証が主体で、このマニュアルの基本をなす考え方の理解と次回の避難所訓練で各作業グループがどう取組みすればできるかが課題です。

会議は作成者である、小山久保町自治会長によりプロシエクターを利用しマニュアルの説明がなされ、分かりやすく順調に進みました。座談会の時間では質疑応答を設け、活発な意見交換がなされました。その結果、市との連携も確認され、来年の訓練に向けたロードマップによる各作業グループの取組みが決まり、意義ある運営協議会となりました。

次回の訓練までに色々試行錯誤があろうかと思いますが、困難にも